
最期るとき

サシダ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最期するとき

【Nコード】

N7976A

【作者名】

サシダ

【あらすじ】

幼い頃から不治の病にかかったボク。無意味な治療を続ける毎日
が嫌になっていた。そんなある日、ボクはキミに出会う・・・。

ボクはもうすぐ、君の前からいなくなるだろう。

それは、死ぬということだ。

幼い頃から病魔に冒され、人生の殆どをこの無菌室の傍らで過ごしていたボクは、とうの昔に死んでいてもおかしくなかった。

そんなある日、ボクはキミと出会った。

見つめ合った視線の先に、互いの気持ちを知ってしまった。そして、互いに相手を好きになった。

それからの日々はボクにとって人生で一番素晴らしいものだった。キミというだけで、ボクの人生は満たされていった。

だけど、いい事ばかりは続かなかった。余命を宣告された。

・・・三日間だった・・・。

理由は、病魔の異常な進行が発覚したのだった。

ボクはキミにそのことを話した。そしてボクは、死ぬその時まで、キミのそばにいたいことを望んだ。

．．．．．そろそろ．．．．．
最期のときが．．．．．来たようだ．．．．．。心残りなのは、キミとはもう会えないこと、それにキミを悲しませたまま、死んでゆくことだ。

キミには．．．．．感謝している．．．．．キミがいなければ．．．．．ボクは自分の人生を後悔しながら．．．．．
．．．死んでいただろう．．．．．

ボクが死んでも、キミとの思い出は残りつつける．．．．．
どうか泣かないでくれ。涙を見せないでくれ。キミの悲しむ顔を見るのは、死を告げられたことより辛い．．．．．。最期に、ボクの気持ちをキミに告げたい．．．．．。

ありがとう．．．．．ボクの心に咲いた、キミという花。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7976a/>

最期のとき

2011年1月16日07時14分発行